

大阪市大家政 ○谷 嘉代子
藤田 弘子
平野久美子

1. 発達の研究は、児童を対象とするものにとって、もっとも中心的な問題であり、数多くの研究者による成績があげられている。本研究も児童の発達を研究目的とするものであるが、次の2点の特徴をそなえている。(1) 発達を立体的視点よりみる。すなわち精神面、身体面、社会面より総合的に追求する。(2) 発達を縦断的に逐年的にみる。従来、発達は横断的資料の積重ねで論じるのが多いのにたいし、同一対象で同一研究者が数年にわたって追求する。

2. 方法は小児医学的、児童心理的方法によるが、本報告では、(1)精神発達の測定としての発達検査、知能検査。(2)脳波による発達測定、(3)母親に対する質問による家庭環境および児童の家庭生活面での変化の様相、の3項目に重点をおき、第1報の成績とも総合的に考察する。対象、測定時期、および測定回数は第1報と同一である。

3. 結果は次の諸点が注目され、考察される。(1)精神発達の型、および発達程度と身体発達・脳波発達との相互関係。(2)発達指数による知能指数の予言性の検討、(3)生活上の諸領域(食事、睡眠、遊び等)の問題の発達の考察、(4)家庭環境(家族構成、母親の有(無)職、躰の態度)が発達におよぼす影響の検討等である。